



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



切り抜き文字と作成した看板

木製ながら各部を動かせる作品も！

木材の加工はお手のもの

木製工芸品も写真も 一目見て何かが伝わるものを！

自らの趣味と就業経験を生かし、地元の素晴らしさを発信する元気な男性を紹介します。

長岡 豊さん(74歳) 日高町栗山

日高町栗山の作業所で出迎えてくれたのは、各種機械を駆使し、さまざまな木製品を生み出す器用な手先の持ち主、長岡 豊さん。

建具からクラフトまで

子どもの頃から好きだった木工に、本格的に携わってかれこれ60年。訓練校を卒業し、建具店に弟子入り後、自ら建具店を創業した経歴の持ち主です。

現作業所には、操業時の機械類が置かれ、長岡さんが得意とする木製品がその一角に並んでいます。クレールン車、ブルドーザー、乗用車、牛車、コウノトリ…。

長岡さんは、これらを趣味の一環で作る傍ら、「道の駅」などで商品として販売しています。値は安くはないですが、長岡さんは「手間を考えると日当にもならないが…」と笑います。木材は、建物の建築時に出る端材を使う(現場からもらえる)など、無駄なく利用します。

クラフトグループ

「マロニエの森クラフトグループ」にも所属する長岡さん。メンバーそれぞれが得意

分野を持ち、各地で作品展示会や木工教室を開催します。

メンバーは「長岡さんの加工技術はピカイチ。モチーフ(題材)を見つけてからそれを木製品にするのも早い」と驚嘆します。長岡さんは「すぐに作製しないと、いつまでも頭に残っていないから…」と笑い飛ばします。

苦勞も経験に！

長岡さんは、建具店を廃業し、その後、工芸店では板マネキンなどのディスプレイ製品に、木工所ではクラフト作製に携わります。それら就業経験も「今の木製品に生かされている」と言います。

退職後、大病を患った長岡さんは「闘病中は死ぬ思いだったが、コウノトリに助けられた」と振り返ります。「コウノトリは幸せを運ぶ」との思いで作製したコウノトリクラフト(木製品)を、「入院先の病院のあちこちに置いてもらった」と話します。「おかげで病を克服し、元気でいられる」と、今も各種のコウノトリクラフトを作り続けています。

東北の震災被災者へ

長岡さんたちは、震災の被災者が笑顔になれるよう、「コウノトリの箱庭」(木製プラント)の作製にも携わりました。「他にできることは？」と、木製品の売り上げの寄付も行いました。

没頭するもう一つの趣味！

長岡さんのもう一つの趣味は「写真」。カメラ歴約50年の長岡さんは、白黒写真の時代に自ら現像もしていたほど。今では「せっかくのジオパーク。もっと知ってもらいたい」と、神鍋溶岩流(日高町十戸(栗栖野)の撮影も。「展示する機会があれば、皆さんに見てもらいたい」と、溶岩流の美しさを収めた写真パネルも自作しています。

全国コンクールなど、多くのコンクールで入賞経験のある長岡さん。写真の魅力は「写真1枚でどれだけ表現できるか。写真を見れば被写体の声がか聞こえるような写真を撮れば最高！」と語ります。

今後「クラフトでも写真でも、何かひらめいたら、アイデアを絞って、何にでも取り組みたい」と好奇心旺盛な長岡さん。今日もモチーフ探しに出掛けていきます。

ま ち の 話 題

夏の城崎温泉街の風物詩
第65回町内対抗野球大会を開催！

8月25日、城崎中学校(城崎町湯島)グラウンドで、第65回町内対抗野球大会を開催しました。大会には、中学生から一線を退いた超ベテランまで、自治会を中心とした4チームが参加しました。

この大会は、昭和20年からほぼ毎年開催しており、地域の伝統を守るために、遠方から帰省して出場する選手がいるほど地域に根ざっています。

投手として優勝に貢献した旭区の芹澤恭輔くん(城崎中3年)は「近所の方とチームを組むので、顔見知りになれます。仲が深まれば」と期待を込めて話していました。



▲玄さんと一緒に踊る園児たち

竹野認定こども園「はさかり岩PRソングはさかりRock'nダンスレッスン」
歌を通して「はさかり岩」を知ろう！

9月4日、竹野認定こども園(竹野町須谷)で、はさかり岩PRソング「はさかりRock'n」のダンスレッスンが開催され、園児71人が曲に合わせて楽しく踊りました。園児たちはダンスの感想を聞かれると、「楽しかった」「面白かった」と元気に答えていました。

この曲は、山陰海岸ジオパークにある日本でも珍しい奇岩「はさかり岩」を全国に広めるために作られたものです。曲を歌う遊月亭いく蔵さんは「子どもたちは覚えるのが早く、この歌を通して地元の良いところを知ってもらえれば」と話していました。



▲好・珍プレーの連続に会場は歓声に包まれる

笑顔の輪

情熱的であれ！チャレンジングであれ！
男声合唱団「エル・ドラード」

火曜日の夜、豊岡小学校の音楽室から、男声合唱団「エル・ドラード」のさわやかな歌声が流れてきます。

同団は、今年3月に誕生したばかり。団員は4代から70代までの21人です。

指導者の藤原紘道さんは、「合唱団は数多くあるのに、男声合唱団は但馬にも、北近畿にもありません。楽しく息長く活動できる合唱団を作りたいと呼び掛けました」と話し、「黄金郷、黄金の人」の意がある「エル・ドラード」の団名



▲練習風景。豊かで澄んだ歌声が響きまします。

には、閉塞感漂う時代にあっても、はつらつと輝き続けようという思いが込められています。

団長の北村博司さんは「男声の繊細で深い音質のハーモニーには、独特の魅力があります。合唱を通して皆さんと感動を共有したいです」と抱

負を語りました。

現在、9月の市民音楽祭出演に向けて特訓中！パート構成は第1・第2テノール、バリトン、ベースの4部合唱で、「アヴェ・マリア」、力を奮い立たせる「いざ起て戦人よ」、躍動感にあふれた学生歌「森の歌声」の3曲を歌い、さまざまなイメージの世界に誘います。

11月には但馬合唱祭に出演、近い将来はリサイタルや各地の女声合唱団とのジョイント公演と、夢は広がります。

藤原さんに歌が上手になる秘訣を聞くと、同団に入団し練習するのが早道とのこと。

団員募集中です。経験は問いません。希望者は、大倉俊昭さん ☎22-4474、北山富三郎さん ☎23-0676、山本邦雄さん ☎23-7980 まで。